

個別 講座名	専門職連携で学ぶ事例検討 ～複雑化・複合化した支援ニーズのある事例から考える本人中心の意思決定～ (対面開催)
担当教員	○善生 まり子、高村 夏輝 野呂 牧人先生（ケアビレッジ・シャローム副施設長） 江口 幸治先生（埼玉大学オープンイノベーションセンターリカレント教育部門長）
開講日時	9月13日（日）対面学習9：30～16：30
総時間数	研修時間数：6時間 履修証明プログラムにおける時間数：8時間＊ ＊1時間＝45分間（実質の受講時間）＋15分間（自己学習）
目的 ねらい	目的：複雑化・複合化した支援ニーズをもつ利用者の「生活の継続」を支えるために、本人中心の意思決定を土台とした専門職連携（IPW）の実践を、事例を通して統合的に学ぶことを目的とする。 ねらい：1. 事例を通じて、本人の価値観・生活課題・関係者の視点を整理し、複雑な支援ニーズを理解できる。 2. 倫理的葛藤や意思決定を「チームで扱う課題」として捉え、共有・検討するための思考を身につける。 3. 専門職の役割と強みを踏まえ、本人中心の意思決定プロセスを多職種でなすための専門職連携スキルを養う。 4. 学んだ内容を自施設や地域の実践に結び付け、具体的なアクションプランとしてまとめる力を培う。 〔キーワード〕 専門職連携、本人中心の意思決定、複雑化・複合化した支援ニーズ、マネジメント、倫理的葛藤
到達目標 評価方法	到達目標：1. 本人中心の意思決定の基本構造と、生活の継続を支えるケアマネジメントの視点を説明できる。 2. 複雑化・複合化した支援ニーズをふまえ、事例情報を構造化して共有できる。 3. 倫理的葛藤や意思の不明瞭さによる意思決定が滞る要因を整理し、チームで方向性を提示できる。 4. ロールプレイを通じて、チーム調整や役割整理などの専門職連携スキルを活用できる。 5. 自施設の課題から具体的なアクションプランを作成し、説明できる。 評価方法：1. 対面研修の受講状況 2. 研修後アンケート（理解度・満足度）の回答
講義内容	1. 導入（9:30～9:50）（善生まり子） ・研修の趣旨、本日の進め方、事例紹介（複雑化・複合化した支援ニーズをもつケースの背景を共有） 2. 講義①（9:50～10:20）本人中心のケアを支える制度と意思決定の枠組み（江口 幸治） ・本人中心の意思決定の基本構造、本人・家族・専門職の価値観の違いの理解、意思決定が滞りやすい場面の特徴 3. 演習①（10:20～11:10）事例の構造化：アセスメント視点の共有（江口 幸治、他全員） ・ケースの大枠（全体像）を読み解く、「価値観」「生活を維持する要素」「連携すべきポイント」を整理 ・複雑な支援ニーズを“見える化”し、チームで共有する 4. 講義②（11:20～11:50）本人中心の意思決定を支えるポイント（高村 夏輝） ・本人の意思・価値観を中心にする工夫、情報不足・価値観不一致・意思の揺らぎ対応、倫理的葛藤の整理方法 5. 演習②（11:50～12:40）倫理的葛藤の読み解きと対応策の検討（高村 夏輝、他全員） ・意思決定が滞る要因を整理、葛藤を「対立」ではなく「ギャップ」と捉える、解決の選択肢をチームで広げる 6. 講義③（13:30～14:00）チーム調整とケースマネジメントのポイント（野呂 牧人） ・連携が機能しにくい場面の典型例、情報の見える化、多職種の役割整理 ・本人中心の意思決定プロセスを“チームでつくる”実践ポイント 7. 演習③（14:00～14:50）事例検討ワーク：チームでつくる意思決定プロセス（野呂 牧人、他全員） ・多職種役割を設定したロールプレイ、本人中心の意思決定プロセスを協働で進める体験 ・共有→調整→再構築のプロセスを実践的に学ぶ 8. パネルディスカッション（15:00～15:30） 9. リフレクション及び発表（15:30～16:30）学びの統合とアクションプラン作成（善生まり子、他全員） ・個人リフレクション：今日の気づきを整理し、実践への違和感や気づきを言語化 ・チームリフレクション：多職種の役割再確認、連携プロセスで見えた改善点共有 ・アクションプラン作成：自施設の課題を振り返り、明日から取り組める「小さな一歩」を明確にする



# 専門職連携で学ぶ事例検討

～複雑化・複合化した支援ニーズのある事例から考える  
本人中心の意思決定～



**<本講座の目的>** 複雑化・複合化した支援ニーズをもつ利用者の「生活の継続」を支えるために、本人中心の意思決定支援を土台とした専門職連携の実践を、事例を通して統合的に学びます。

ケアマネジメントのスキルをさらに高めたい方にお勧めの講座です。

対象は、保健・医療・福祉の専門職等で職種や勤務年数などは問いません。

開催日時・場所

9月13日(日)

9:30～16:30

受講料:3,000円

定員:20名

場所:埼玉県立大学

申込:埼玉県立大学

ホームページから8月28日(金)までにWEB申込

講師の紹介

**野呂 牧人**(のろ まきと)

ケアビレッジ・シャローム副施設長  
埼玉県立大学 IPEアドバイザー

**江口 幸治**(えぐち こうじ)

埼玉大学学術院・民法学  
埼玉大学経済経営系大学院・  
経済学部、リカレント教育部門長

**高村 夏輝**(たかむら なつき)

埼玉県立大学共通教育科

**善生 まり子**(ぜんしょう まりこ)

埼玉県立大学看護学科

IPE: 専門職連携教育

## <プログラム>

1. 本日の進め方、事例紹介
2. 本人中心のケアを支える制度と意思決定の枠組み (講義)  
事例の構造化: アセスメント視点の共有 (グループワーク)
3. 本人中心の意思決定を支えるポイント (講義)  
倫理的葛藤: 読み解きと対応策の検討 (グループワーク)
4. チーム調整とケースマネジメントのポイント (講義)  
事例検討ワーク: チームでつくる意思決定プロセス (グループワーク)
5. 学びの統合とアクションプラン作成 (個人とチーム、全体での振り返り)

ALS: 筋萎縮性側索硬化症



## ALS事例

言葉にならない“思い”を、  
どう受け取るか。

